

第114回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和7年1月30日（木）

午後7時～午後9時

会 場：城山総合事務所本館2階B会議室

出席者：20名（欠席5名）

傍聴者：1名

1 開 会 内山所長

2 代表あいさつ 小島代表

3 議 題

（1）令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返りについて

令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会について、事務局から資料1に基づき結果報告がされ、懇談会において話題に上がった、大雨の際の葉山島や久保沢の状況について、区役所や都市建設局の職員と現地確認をするなど、今後の対応について検討中である旨事務局から説明がされた。

また、緑区長との懇談会を今年度中に実施する方向で調整することとなり、懇談したいテーマがあれば事務局へ報告することとなった。

《 主な意見 》 （●…委員、○…代表、▲…事務局）

- 現地確認をした葉山島は進展があったのか。久保沢については来月現地確認予定であり、その後対応を検討することになっている。
- ▲葉山島については緑区長と緑区役所職員、城山まちづくりセンター職員が葉山島自治会会長の立会いの下、現地確認を行った。今後は各関係部署と連携し、対応を検討していく。また、同じ日に小倉の現地確認も行った。
- 懇談会について、質問や意見に対して危機管理局長が概ねの回答を行っていたが、実際に地域の問題等に対応するのは別の部署である事例があり、問題に対処する職員に回答をしてほしかった。指示をするだけの危機管理局長が懇談会に出席するという市の姿勢は、如何なものかと思う。
- ▲今回の懇談会のテーマは防災であったため、市の防災業務の主管をしている危機管理局が出席をした。避難所運営の話になれば区役所が担当になるので、区役所の職員も出席していた。テーマシートの内容に沿った担当部署が出席していたので、ご理解をいただきたい。
- 具体的な話題が出そうなテーマであったため、緑土木事務所等、実際に現場で対応する担当部署の職員に出席してほしかった。より良い懇談会にな

るために、改善してほしい。

- 懇談会での市側の回答は、議会答弁のような内容で懇談とは遠いものであった。実務に近い職員が出席して、懇談会として実りのあるものにしてほしい。
- 別の機会で緑区長と会って話をした際、上辺だけの懇談会にはしたくない旨の提案をしたところ、市長との懇談会とは別に、まちづくり会議の委員の方々と懇談する場を設け、忌憚のない意見を聞きたいとの話があった。区長との懇談会を実施することについて、皆さんの意見を聞き、ぜひ実施をしたいと考えている。
⇒異議なしの声
- 緑区は、中央区・南区とは異なった問題を抱えている。緑区長との懇談会は、ぜひ良いことだと思うので、開催してほしい。
- 来年度の実施に向けて、計画をするかたちでよろしいか。
- ▲来年度でいいのか。まちづくり会議のメンバーは変わる可能性もあるため、今のメンバーで懇談会をしたいということであれば、今年度中に実施する必要がある。
- 今年度中に実施が可能であれば、ぜひ実施したい。
- 市長との懇談会では、反省として、結果までいかない、結論が出ないという反省点があった。しかし、行政と話をする場合は、誰と話しても結論は出ないし、持ち帰って検討をするという回答しか得られない。区長と懇談しても同じような結果になると思う。地域の問題点等がある場合は、まちづくりセンターの所長へ出し、市の担当部署と協議した結果を、まちづくり会議に戻してもらえばいい。懇談会等の会議を増やしても意味はないと思う。
- 全くその通りであると思う。区役所としてはあまり予算を持っていないし、やれることは限られている。効果としては薄いかもしれないが、緑区長に地域の生の話を聞いてもらう場は、あってもいいと思う。区役所のトップに理解をしてもらえば、今後の展開に繋がると考える。
- 市長との懇談会についても、あの場があったから葉山島や小倉の現地を区長が確認するかたちになったので、意味はあったと思う。
- 可能であれば、今年度の実施する方向で調整をしていきたい。
- テーマは決めた方がいいと思うので、何について区長と懇談するのか、役員等で事前に決めて挑んだ方がいい。
- 懇談したいテーマがあれば、事務局へ報告すること。

(2) 市に対する質問事項等について

前回全体会において内容確認を行った市に対する質問事項等について、事務局

から各担当課に質問に対する回答の依頼をし、回答がまとまった後今後の全体会で報告がされる旨説明があった。

(3) 城山地区で具現化していく取組について

全体会では、事務局から資料3、4に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後にそれぞれ解散となる旨説明があった。

(4) その他

片倉委員から、JAXAとコラボして開催した音楽会についての報告があり、生のバイオリンを聴いて感動した方や、はやぶさの映像を見て涙した方もいて、また開催してほしいという声が多かったため、次回開催が決まったらぜひ参加してほしい旨の話があった。

金子委員から、令和7年2月15日(土)城山公民館で開催する城山エコミュージアムのつどいについて話があり、城山エコミュージアム委員会の活動紹介と、相模原の気候と気候変動についての気象予報士の講演があるので、ぜひ参加してほしい旨の話があった。

本野委員から、令和7年3月2日(日)法政大学多摩キャンパスで開催される地域交流DAY2024について話があり、城山地区で様々な活動をしている法政大学ソーシャル・イノベーションセンターの活動報告や、地域の方と学生の交流の場があるので、ぜひ参加してほしい旨の話があった。

4 閉 会 高野副代表

以 上

【全体会終了後の各部会での検討内容】

●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

これまで部会で検討してきた「しろやま☆おせっかい」の取組として、おせっかいの輪を広げる「おたがいさまの縁づくり」を若葉台地区で実施したが、その振り返りを行った。また、各地区で参加者の意見を聞いて作成しているおせっかいスゴロクについて、完成したら印刷をして全戸配布することとなった。

《 主な意見 》

- ・若葉台地区で実施した際、今まで他の地区で実施した際の集合時間に來た方がいて、長くお待たせすることになってしまったが、特段トラブルにはなら

ずに参加していただいた。

- ・おせっかいスゴロクについては、役員で内容を固めた後、最終確認をして印刷し、全戸配布する。
- ・おせっかいの輪を広げるため、予算に残額があればバンダナ等を購入して今までの参加者に配っても良いのではないか。
- ・おせっかいスゴロクを作成して配布するところまでで部会の活動は完結すると思う。家庭でスゴロクをやりながら、おせっかいとは何か、ということを考え、風土が根付くきっかけになると思う。

●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

「あつまれ～しろやまっこ！」を川尻小で実施したが、その振り返りを行った。また、来年度の事業実施に向けた内容の検討を行い、来年度もモルックを活用した交流の場を設けることとなった。来年度は計画や当日の運営にも子どもたちに参加してもらい、子どもたちの主体性を育む一助となる活動にすることとなった。

《 主な意見 》

- ・あつまれ～しろやまっこ！を実施した際に子どもたちにアンケートを取ったが、皆が楽しかったという感想だった。また、他の学校の子と話ができて良かった、大人と話ができた、などの部会が考えていた効果が見え、とても良かった。
- ・大人だけで考えるのではなく自分たちも一緒に考えてやりたい、という意見が子どもたちから出た。来年度は事業の計画段階から子どもたちと一緒に取り組んでいきたい。
- ・城山地区の全ての小学校に委員が訪れ、学校を跨いだつながりを持つことができて、とても良かった。地域の子ども会等が減少するなか、新たな活動によって地域と子どもの交流が増えるきっかけになれば良い。
- ・来年度は地子連と連携を深め、より良い事業を実施し、子どもの育成に寄与していきたい。
- ・来年度の地域活性化事業交付金申請に向けて、事業計画を立てる必要があるが、新たなことをやるのではなく、今年度と同様にモルックを通じた交流を進めるのが良いのではないか。計画段階から子どもたちに参加してもらい、子どもたちの主体性を育んでいきたい。
- ・計画段階から子どもたちに参加してもらうためには、その子どもたちをどのように集めるかが大事。今年度に参加した子どもを中心に考えた方が良い。
- ・計画段階から子どもに関わってもらうのはハードルが高いので、モルックのゲームの進め方や当日の運営方法を子どもと一緒に考えるのも良いと思う。
- ・親が来ないとなかなか子どもだけでの参加は難しいので、親の参加を促すよ

うなことも必要。

以 上

第114回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期: 令和6年4月27日～令和8年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会(会長)	代表	小島 盛生	出席
2		城山地区自治会連合会(副会長)	副部長①	林 和博	出席
3		城山地区自治会連合会(副会長)		中野 秀人	出席
4		城山地区自治会連合会(川尻小学校区)		井上 貢一	出席
5		城山地区自治会連合会(湘南小学校区)		西川 正行	出席
6		城山地区自治会連合会(広陵小学校区)		安西 忠義	欠席
7		城山地区自治会連合会(広田小学校区)	副部長②	小原 貴弘	出席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会		井上 章	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会	副代表	菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		依田 和光	欠席
11		相模原市赤十字奉仕団城山分団	部長①	宗田 眞理子	出席
12		城山地域包括支援センター		藤瀬 香理	出席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	出席
14		城山観光協会		櫻井 かおる	出席
15	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		小野寺 義行	出席
16		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
17	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	出席
18		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		田中 友紀	出席
19		城山体育振興協議会		松木 昇	出席
20		城山地区小中学校長情報連絡会		鈴木 満博	欠席
21		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャクラブめいぷる		片倉 理恵	出席
22		神奈川県立相模原城山高等学校		小松 巖	出席
23	有識者		部長②	金子 直美	出席
24				八木 正夫	欠席
25				本野 直子	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会

出席者数 20人

②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

欠席者数 5人

第114回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和7年1月30日（木）
午後7時
会 場 城山総合事務所本館
2階B会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 議 題

- (1) 令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返りについて ……資料1
- (2) 市に対する質問事項等について ……資料2
- (3) 城山地区で具現化していく取組について（部会検討） ……資料3・4

4 閉 会

<次回の予定>

第115回全体会

3月18日（火）午後7時

城山総合事務所
本館2階B会議室

令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会 「地域の未来を語ろう with 市長」結果報告

テーマ

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する（二つ以内）。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概要	城山地区における防災対策について
内容	<p>近年、台風やゲリラ豪雨等による水害、南海トラフ地震等の震災のリスクが高まっており、激甚化する災害に備えなければならない。</p> <p>災害が発生した場合、行政が担う「公助」が最も重要であるが、大災害であればあるほど、行政機能の麻痺が想定され、住民への迅速な「公助」を期待したいところではあるが、難しいであろう。「公助」が届くまでの間、自分自身の命や身の安全を図る「自助」、地域コミュニティで相互に助け合う「共助」が必要になってくる。</p> <p>そこで、本年度の懇談会では、城山地区において必要な防災対策について、次の内容で懇談をし、市と地域住民が一体となった防災対策を考えたい。</p> <p>1. 城山地区における災害リスクについて 地震災害や風水害について、広く一般的な防災対策ではなく、城山地区で特に気をつけるべきこと、他の地区に比べて発生リスクが高い災害等、市として考えている城山地区の災害リスクを伺いたい。</p> <p>2. 災害発生時の公助と自助・共助の内容について 災害が発生した際、公助と自助・共助が連携することが重要であるが、次の場合に市が想定している公助の具体的な内容を伺いたい。</p> <p>①道路が寸断された時の輸送経路の確保 ②ハザードマップ上の危険区域に住んでいる住民の被災時における行動 ③避難行動要支援者に対する支援</p> <p>また、その公助の内容を踏まえた上で、自助・共助において具体的にどのようなことが必要なのか、意見交換を行いたい。</p>

■地区の取組状況等

- ・各自治会、学校により積極的に防災訓練を実施している。
- ・城山商工会では、災害に強い商工会づくりを進めており、災害時に商工会の会員が把握した被害状況を情報収集する仕組みづくりを検討している。
- ・若葉台地区において、「若葉台住宅を考える会」が地域活性化事業交付金を用いて多世代向けの防災イベント（「あそぼうさい」令和6年5月26日実施）や講座・ワークショップを実施しており、地域全体の防災意識の向上を図っている。住民が地域の特性に合わせて自ら行っている防災活動であり、地域内外の防災コミュニティ・防災ネットワークづくりを目指している。

■市の取組状況等

市の現状・経過・取組状況

1. 城山地区における災害リスクについて

【地区防災計画】

○市内 22 地区では、地域が主体となり、地区の特性を踏まえた防災計画である「地区防災計画」が策定されており、城山地区では、平成 27 年 10 月に策定し、令和 4 年 7 月に修正を行った。

【ハザードマップ】

○城山地区の土砂災害ハザードマップは令和 4 年 3 月に改訂し、約 3,800 箇所配布した。

○城山地区には、土砂災害警戒区域 103 箇所、土砂災害特別警戒区域該当箇所 88 箇所が指定されている。

城山地区 土砂災害警戒区域等指定箇所数 (R6.4.1)

	警戒区域		特別警戒区域	
急傾斜地の崩壊	43	103	43	88
土石流	60		45	

※土砂災害特別警戒区域該当箇所

小倉、川尻、久保沢 2・3 丁目、城山 1・3・4 丁目、谷ヶ原 1・2 丁目、中沢、葉山島、向原 2・3 丁目、若葉台 1・3・4・5・6・7 丁目

○城山地区の洪水ハザードマップ(相模川・境川)は令和 2 年 2 月に改訂し、約 2,500 箇所配布した。

○相模川、境川、小松川沿いには、氾濫想定区域や浸水想定区域がある。葉山島地域や境川沿いの一部では、浸水深が 5m 以上と予測されている場所がある。

【アセスメント調査】

○平成 26 年に公表した市防災アセスメント調査結果によると、本市東部直下を震源と想定した地震において、城山地区の 4 小学校区(川尻小、広陵小、湘南小、広田小)では、建物全壊 341 棟、死者 23 名、重軽傷者 226 名などの被害が予想されている。

○市内他地区との相対的な危険性の比較では、「土砂災害危険度」は、川尻小、広陵小、湘南小学校区で高くなっており、「地震被害危険度」は、4 小学校区全てで高くなっている。

○湘南小学校区では、液状化の危険性がある。

【日ごろから気を付けること】

○土砂災害ハザードマップ等により、自宅及びその周辺にはどのような災害リスクがあるのか確認をすることが重要。

○土砂災害警戒区域のほか、浸水想定区域でも、浸水深 3.0m 以上(1 階建ての場合は 0.5m 以上)になる区域や洪水時に家屋倒壊の危険性がある区域等においては、立ち退き避難が原則となる。市が指定する風水害時避難場所に行くことだけが「避難」ではない。日ごろから、親せきや知人宅、宿泊施設などの避難先の確保も検討していただきたい。

2. 災害発生時の公助と自助・共助の内容について

①道路が寸断された時の輸送経路の確保

○今回の懇談の対象である「県道 48 号[鍛冶谷相模原](川尻交差点～向原交差点まで)」は、県により、第 1 次緊急輸送道路(高規格幹線道路、一般国道等で構成する広域的ネットワーク及び港湾等に連絡する路線で緊急輸送の骨格をなす路線)に指定されている。

○市地域防災計画では、道路の損壊や倒壊した建物等による交通障害が発生した場合の緊急通行車両等の通行を確保するため、緊急交通路に指定される道路の道路啓開を優先して実施するほか、道路被害状況等に基づき、緊急輸送道路や市役所、消防署、警察などの防災対策を実施する上で重要な施設を結ぶ道路などから、道路啓開を行う道路を選定することとしている。

○道路啓開は、都市建設局、各道路管理者、自衛隊、協定締結団体等が連携を図り実施する。

②ハザードマップ上の危険区域に住んでいる住民の被災時における行動

- 市HPをはじめ、土砂・洪水ハザードマップやさがみはら防災ガイドブック等で、災害時に備えた行動について市民周知を行っている。
- いざという時に行動が起こしやすいよう、マイタイムライン作成講座などを行っている。
 - ③避難行動要支援者に対する支援
- 要介護者や障害者等の自ら避難することが困難な避難行動要支援者の名簿を毎年更新し、福祉部門や危機管理部門、各区役所、各まちづくりセンター等において共有するとともに、必要に応じて、消防機関や警察、自主防災組織などへ提供することとしている。
- 市と協定を締結した自治会等の支援組織へは、平常時から名簿を提供している。名簿は、平常時には見守りや防災訓練等に活用されており、災害時には安否確認をはじめとする避難支援活動に活用していただくこととしている。（※城山区内では、6地区（若葉台、城山、向原、町屋、原宿、久保沢））
- 災害時に自力で避難することが難しい方々を対象に個別避難計画の作成に取り組んでいます。現在は、お住いの場所がハザードマップ区域内であり、要介護度が高い方等、特に災害時において支援が必要と考えられる方々から順次作成をすることとしている。

今後について

1. 城山地区における災害リスクについて

- 現在、防災アセスメント調査を行っており、来年11月頃に結果を公表する予定である。
- 調査結果を踏まえ、市地域防災計画の修正や備蓄量の見直しなどを行う。
- 地域では、地区防災計画の見直しなどに取り組んでいただきたい。
- 引き続き、「自助」の取組として、食料・生活必需品等の備蓄をはじめ、家具の固定や感震ブレイカーの設置、避難所や避難経路の確認など、日頃から地震への備えを行っていただきたい。

2. 災害発生時の公助と自助・共助の内容について

- ①道路が寸断された時の輸送経路の確保
- 現在、県では、神奈川県版の道路啓開計画である「神奈川県緊急輸送道路管理マニュアル」について、今年度末の改訂に向け検討中。
- 道路啓開（応急復旧）手順のほか、優先啓開候補路線の事前選定や建設業団体、電力・通信会社との連絡体制なども記載予定。
- ②ハザードマップ上の危険区域に住んでいる住民の被災時における行動
- 今後も災害時に備えた避難行動について市民への周知啓発を行っていく。
- 土砂・洪水ハザードマップについては、新たに区域の指定・解除があった場合は、改訂する予定である。
- ③避難行動要支援者に対する支援
- 今後、お住いの場所がハザードマップ区域内でない方々も含め、個別避難計画の作成数を拡大していく。

【質問・意見と市の回答】

質問・意見	市の回答
<p>・最近、集中豪雨が多く、150mm以上の雨が降ると通行止めになる場所もあるが、雨量と災害リスクの関係性が分かるハザードマップのようなものが必要だと感じる。</p> <p>・災害に強い商工会を目指しているが、地域力を使った防災計画が必要であるため、能登地震の状況等も含めて、具体性のある情報提供をお願いしたい。</p>	<p>・昨年8月に大雨が降り、本市として久しぶりに避難場所の開設をした。危険との因果関係は、気象台の情報を元に判断をしているが、雨の降り方や時間など、あらゆる情報を総合的に判断して避難指示等を出している。大雨注意報や警報の情報が気象台から出ると、市民への周知等、状況に応じた準備を市で行っている。警報が出た後、土砂災害警戒情報が出ることがあるが、発表されてからでは遅いので、いつ発表される予定か気象台に尋ねている。発表予測の情報が入った段階で避難場所開設の準備をするが、発表予定の3時間前には避難場所の開設準備を始めている。その後、開設の前に高齢者避難指示を出しており、ハザードマップの危険箇所にお住まいの高齢者の方については、リスクがあるため安全な場所への移動をお願いしている。さらに事態が進行すると、ハザードマップの危険箇所にお住まいの一般の方への避難指示を出すかたちになる。浸水の場合も同様の手順を踏んで避難情報を出している。</p> <p>・能登の被害状況について、昨年8月に市長と現地へ視察に行ったが、建物の倒壊が激しかった。輪島に関しては、耐震化率が50%程度という実態があったため、倒壊する建物が多かった。本市の耐震化率は95%であるため、建物倒壊のリスクは低いと考えられるが、耐震化ができていない建物もあるため、市の耐震化の補助等を活用し、耐震化を各自で進めていただきたい。</p>
<p>ライフラインについて、能登の視察を踏まえた本市の状況はどうか。</p>	<p>水道について、神奈川県企業庁のデータによると、耐震化率は神奈川県全体で79%であり、全国一高い数字とのこと。下水道については、能登で液状化の被害が多かったとのことだが、本市は土壌が安定しており、大部分の場所が液状化の心配がない。</p>
<p>相模丘中の近くにある側溝において、U字溝の部分がズレてしまっていて水が溢れている状況があるが、対応をお願いしたい。</p>	<p>おそらく水路のU字溝だと考えられるが、その場合は市の土木事務所が管理しているものであるため、適切な対応をすべきと考える。県の管理している物かもしれないが、いずれにせよ公共の物であれば対応する必要があるため、情報をいただきたい。民地の可能性もあるが、その場合は地域の方々に所有者に声がけをしてほしい。</p>
<p>・避難行動要支援者について、避難所に着いた後、どのような公助がなされるのか、共助がどこまで必要なのか知りたい。また、医療機関や保健師等との連携はどうなっているのか確認したい。</p> <p>・東京都で「東京防災」という冊子が全戸に配られている。とても分かりやすくまとまっているものであり、防災意識の向上にとっても役立つと考える。</p>	<p>・避難所では一般の方は体育館で生活をしていただくが、避難行動要支援者については、学校の教室に小さなスペースを作ってそこで避難生活を送っていただく想定である。ただその教室においても生活が難しい状況になれば、災害発生後3日を目処に福祉避難所を開設し、避難行動要支援者の受け入れを行う予定である。福祉避難所は市の施設や高齢者施設を活用して開設する予定である。皆さんをお願いしたいのは、可能な範囲で、避難行動要支援者がどこでどういう状態で普段生活しているのか、暮らしの中で把握をしていただき、避難の際</p>

<p>民生委員児童委員協議会から立川消防に依頼して寄与してもらい、防災研修に使用した。非常にコンパクトなサイズで中身も充実しているため、ぜひ参考にして相模原市でも配布してほしい。相模原市は防災ガイドブックがあるが、サイズが大きいので、もう少しサイズを小さくすることを検討してほしい。</p>	<p>や避難後のアドバイスをしていただく等、共助の中でご協力をいただきたい。また、医療機関等との連携について、避難行動要支援者の情報が避難所から区本部、市本部へ入ると、そこから医療機関や保健師に連絡して症状に合わせた対応をするような連絡体制があるので、安心していただきたい。</p> <p>・「東京防災」については以前より存在は把握しており、とても良い冊子だなと感じていた。本市の防災ガイドブックは、分かりやすく、見やすく、簡単にというコンセプトで作成した。現在、市で防災アセスメント調査を行っており、来年には結果が出る予定であり、能登の状況を踏まえた見直しを国で行っているため、来年度から防災ガイドブックの改訂作業に取りかかる予定である。サイズの見直しを含めて、検討していきたい。また、東京防災は皆さんの関心がある冊子であるため、東京都のホームページに掲載されている冊子のデータを、市のホームページからリンクで閲覧できるように変更したい。</p>
<p>・自主防災隊や避難所の訓練に参加した際、倉庫の中身を見たところ資機材が充実していない印象があった。資機材を管理したり充実させるのは、各自治会なのか、行政なのか、伺いたい。</p> <p>・九都県市合同防災訓練に参加し、仮設トイレを使用してみたが、狭く、水洗方法がふさわしくなかった。ペダルを押す・踏むは高齢者には困難であるため、他の方法を善処すべきだと思う。バケツに水とひしゃくがあれば助かる。皆さんで一度使ってみて、使用感を確認した方がいいと思う。大きな災害が起きないと見直しがされない印象があるので、危機管理意識を持って取り組んでいただきたい。</p>	<p>避難所にある資機材について、旧津久井4町の避難所は共通の資機材が倉庫に入っている。トイレは和式3台、洋式3台が配備されている。備蓄されているものは、被災初期に必要なものを一式揃えている。訓練の際、倉庫にある資機材については地域の皆さんで確認をしていただきたい。本市には大きな備蓄倉庫があり、そこに大量の物が備蓄されているため、生活していく上で足りないものが出てくれば、順次市の大きな倉庫からそれぞれの避難所へ配送したり、開設していない避難所から物を融通する体制を整える予定である。被災後3日間はそのような体制で乗り切る予定で、4日目以降は全国から大量の物資が届く予定であるため、田名にあるGLP流通センターから各避難所へ物資を配送する想定である。</p> <p>トイレについて、使いにくいトイレはパック式(用を足したものを包んで捨てる)のトイレに変える等、少しずつ更新している。</p>
<p>・防災訓練の際、同報無線(ひばり放送)を借りて地区内にアナウンス等を行っているが、聞こえにくい場所がある。自治会にある広報車で地域を回ってアナウンス等を行っているが、同報無線の聞こえにくい場所のフォローアップをお願いしたい。実際の災害情報はTVKでデータボタンを押して閲覧する等の方法があるが、高齢者が多いためなかなかそのような情報の取得の仕方は難しい。同報無線がどうしても聞こえない場所は、消防署と連携して消防職員が地域を回ってアナウンスをする等の対応をお願いしたい。</p>	<p>・ひばり放送については、聞こえにくいという声はいただいております、大変ご迷惑をおかけしているところである。施設が老朽化していて音が鮮明でないのが一つの理由であり、雨が降っていると聞こえにくいので、放送だけでは情報を伝えることが難しい状況である。ひばり放送が鳴ったら何か情報が出ていると感じてもらい、データ放送や防災メールで情報を取得していただきたいと考えている。来年度からスピーカーを入れ替える等の再整備をしていきたい。その際は、地域の意見をお聞かせいただいで対応したいと考えている。</p> <p>・ハザードマップの危険箇所にお住まいの避難行動要支援者については、市の福祉部門において来年度を目処に個別に避難計画を作成する作業を進めている。その後は、ハザードマップの危険箇所にお住まいでない</p>

<p>・避難行動要支援者に対して、避難するまでの公助にどのようなものがあるのか、確認したい。</p>	<p>避難行動要支援者の個別避難計画の作成を順次進めていく予定である。</p>
<p>・日本は避難所の環境が良くない。台湾やイタリアでは避難した方の日常生活をしっかりと確保する施策が展開されている。相模原市で避難所の改善や、避難所での関連死が減るような対策をどう考えているか。</p> <p>・避難所の資機材の配送は公共の力では難しいと思う。災害ボランティアの力を借りる必要があるが、災害ボランティアセンターが有効に機能するためのマニュアルや訓練が必要だと考えるが、どのように考えているか。</p>	<p>・避難所の改善方法について、能登の被害を踏まえて国でも見直しを進めている状況である。今までは、避難所の生活は必要最低限という認識であったが、そういう潮流ではなくなり、国の予算も拡充を始めているところであるため、相模原市の実情の中で何が必要か精査して避難所の生活環境の改善をしていきたい。たとえば本市は津波被害はありえないので対策を講じる必要はなく、耐震化も進んでいる中で、何が必要なかをよく検討し、避難所の改善を行っていく予定であり、市民の方のご意見をいただきながら拡充を考えたい。</p> <p>・災害ボランティアについて、企業と協定を結んでおり、物資搬送の訓練を行っている。配送業者と協定を結んでいるため、宅配の要領で電子化された情報を活用して速やかに配送できるシステムを構築していただいている。また、災害ボランティアセンターについて、社会福祉協議会が開設をしてボランティアの受け入れを行っている。東日本台風の際、津久井に開設をしてたくさんの方に携わっていただき助けていただいたので、これからも連絡を密にして取り組んでいきたい。</p>
<p>葉山島地区については、西側に山があり、その山から小さな河川が流れており、豪雨の際はそこが鉄砲水となって流れる。昨年の大雨の際に、堤防まで10cm ぐらいのところまで水かさが増してしまい、氾濫寸前だった。その中で、山から小さな河川を通じて倒木が流れてしまい、危険な状態であったので、まちづくりセンターを通じて緑土木事務所に連絡をした。緑土木事務所としては、この大雨の中、重機を出して流木を回収するのは難しいとのことであったため、せめて現地確認だけでもしてほしいとお願いしたところ、生命の危険を冒してでも来てほしいということであれば行きますが、何かあった場合は後処理を自治会の方で責任持って対応してください、との回答であった。こんな意識の職員が災害対応の担当をしているのは残念である。私は避難所運営協議会の会長をやっているが、班長以上には、仮に自分の家が倒壊しようが、避難所を開設する必要があるので、出てきてほしいと伝えている。地域では意識を高く持って防災業務に取り組んでいるので、市の職員も</p>	<p>市の職員の伝え方が適切ではなかったので申し訳なかった。状況としては、東日本台風の際に被災の現場に職員が向かったところ、土砂に車ごと流されてしまい、生き埋めになりそうになった事例があった。現在、本当に危険な時は、外に出るなど職員に伝えている。2次被害を防ぐための措置であり、少し状況が落ち着いた時に現場を確認するよう話している。職員が被災してしまうと、職員の救出という余計な仕事が増えてしまうからである。そのような内容を、緑土木の職員がオーバーに捉えて不適切な表現でお伝えしてしまったのは、大変申し訳なかった。被害が出ないよう、事前に避難指示を出すので、早めに避難していただく対応をお願いしたい。</p>

意識を高く持ってほしい。

令和 7 年 1 月 日

関係各課・機関の長 殿

城山地区まちづくり会議
代表 小島 盛生

市に対する質問事項等について（依頼）

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろから城山地区まちづくり会議の取組につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、城山地区まちづくり会議では、令和 6 年度城山地区まちづくりを考える懇談会（以下「懇談会」という。）のテーマを検討する際、幅広く様々な意見があったことから、懇談会のテーマとは直接関連のない質問事項等については、別途書面により市に対して質問を行うこととなりました。

つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、別紙「市に対する質問事項等一覧」をご確認いただき、令和 7 年 2 月 28 日（金）までにご回答いただきますようお願いいたします。

事務局
城山まちづくりセンター
総務・地域振興班 船橋
電話 042-783-8117

市に対する質問事項等一覧

No	質問事項等	質問事項の詳細	担当課（確認中）
1	地域住民主体による地域課題の解決に向けた担い手確保のための仕組みについて	住みよい城山地区を目指す上で、公共（行政）サービスの人手が少ないと思われる。公共サービスを補完する共助としての団体活動が求められているが、活動の担い手が不足しており、ミュニシパリズムやコミュニティ・オーガナイズの活動、DAO（分散型自立組織）としての協働組合方式等の仕組みが必要と考えるが、市はどう考えるか。	市民協働推進課
2	自転車道の整備について	<p>相模原市の立地環境やCO2削減の観点からも、最もエコな移動手段である自転車利用は最適であることから、移動効率を勘案した上で道路選定し自転車道を整備してほしい旨をまちづくり会議等を通して要望・提案した結果、国道16号線側道部が整備され、現在、安全・安心に利用されている。その際、城山地区においても、通勤時の県道43号線の渋滞緩和等も鑑みて橋本駅始め緑区役所等への移動手段に足る自転車道の整備も同時に要望・提示した。しかし、前述の未来への一歩に停まっているのが現状である。</p> <p>今年度報告された令和7年度緑区観光振興プログラムの実施予定内容には「サイクルツーリズムの推進」が提示されているが、利用者の事故防止の観点からの罰則規定を強化するのみならず、同時に利用者の安全・安心な通行をも重視した自転車道の整備は必至と考える。</p> <p>また、圏央道から国道16号線に至る長竹川尻線・小道道路等のように拡幅された歩道については、歩行者と自転車の通行別指定整備をする等、城山地区発信で市全域へと、市民生活密着と共に外から呼び込めるよう、適正かつ効果的な道の選定による自転車道の整備に取り組むよう要望する。</p> <p>相模原市総合計画の「施策22 安心して移動できる地域交通の形成」においても、自転車道の整備延長等による自転車利用環境の整備が定められているため、現状と方向性を教えていただきたい。</p>	道路計画課
3	歩道の整備について	<p>歩行者の安心・安全な通行を考えた際、鍛冶谷相模原線（県道48号）の向原交差点から久保沢・川尻交差点の歩道について、昨今の急激な大型車両の通行増加と共に、バスも運行され、加えて住宅が近接して建てられているという何重もの危険性を抱える現状にある。しかしながら、東側は飛石状態で、また、西側は全般的に狭いまの歩道であり、今後、大事故が発生する前に、可及的速やかに歩道拡幅に取り組んでいただきたい。</p> <p>さらには災害時の防災の観点から等鑑みても必要な拡幅と考えられ、長年放置されたままなのは如何なる理由なのか。</p>	道路計画課

高齢者とともに築き支える地域づくり部会 検討事項

- 1 広陵小学校区（若葉台地区）おたがいさまの縁づくり（1月25日実施）について
 - ・意見
 - ・反省点
 - ・その他

- 2 しろやま☆おせっかいの今後について

子どもたちの主体性を育む地域づくり部会 検討事項

1 あつまれ～ しろやまっこ！（12月7日実施）について

- ・意見

- ・反省点

- ・その他

2 事業実施方法等の検討（令和7年度地域活性化事業交付金申請に向けて）

○事業内容

○日時、場所

○事業計画等

- ・事業計画
- ・収支予算
- ・その他

○事業体制

- ・実施主体
- ・検討体制
- ・実施体制
- ・その他

○参加者募集

- ・募集方法
- ・チラシ作成
- ・チラシ配付

○その他